

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	Photosynthesis GRC（ゴードン研究会議）への参加・研究発表
氏名 Name	小林 亮平
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	理学研究科・生物科学専攻・博士後期課程3年
渡航国 Country	アメリカ合衆国
渡航日程 Travel schedule	2025年7月26日～2025年8月3日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

私の研究テーマは、遺伝学的アプローチを用いて陸上植物の光合成電子伝達（特に光化学系 I 光防御）の仕組みとその進化を解明することです。

本助成を受け、光合成研究者にとって主要な国際会議の一つである Photosynthesis GRC (Gordon Research Conference)へ参加し、“The E143K mutation in the Rieske ISP subunit of the cytochrome *b₆f* complex alters the extent of photosynthetic control”というタイトルで、ポスター発表を行いました。

会議の日程は、現地時間の7月27日～8月1日でした。26日午前に出発、現地時間の同日深夜にボストンローガン空港に到着し、ボストンで前泊しました。会議終了後は、8月2日の午前1時にボストンローガン空港を立ち、日本時間8月3日の13時過ぎ、特にトラブルや日程変更もなく、関西国際空港に帰国しました。

会議では、28日に Poster Previews セッションがあり、ポスターの内容について、全参加者に向けて30秒で簡潔に説明し、ポスターに来てもらえるよう促しました。

ポスターセッションでは、自身の受け持ち時間として、29日と31日の16～18時が割り当てられ、それ以外の時間にも積極的に交流を図りました。

また、指導教員も同会議に参加していましたが、30日に invited speaker として、私の研究内容も紹介されたので、この口演を受けて私のポスターへ来られる方もありました。

成果 Outcome

自身の研究内容と関連する内容を発表していた speaker や指導教員の口演への質問者など、積極的に自身のポスターへ招いて意見交換を行いました。また、近い研究分野の方や会議中の食事で同席した方を中心に、他の会議とは比較にならないほど多くの方々がポスターに来てくださいました。私の英語力は決して十分とは言えないのですが、分かりやすい言葉を駆使し、丁寧に議論を交わしながら説明を進めることで、ポスターに来てくださった全ての方に興味を持っていただき、理解を得ることができました。

気づきとしては、基本的なことではありますが、変異体の名称がやや理解の妨げになっていることを実感しましたので、論文では分かりやすい名称に変更し、余計な誤解や混乱を招かないように配慮しようと思いました。

また、私たちの研究室とは異なる電子伝達のモデルを提唱している研究者とも議論を交わし、最後まで意見の一致を見ない点もありましたが、互いに一切感情的にならず、友好を深めることができました。方向性は違えど真理を追究する者同士として、意識的に頑迷さを取り払いながらオープンに議論できたことは、自身の研究者としてのキャリアにおいて重要な経験になったと思います。

加えて、他の発表者のポスターも積極的に説明を聞きに行き、これまで考えもしなかったアイデアやアプローチに触れることができ、新しい交流を結ぶこともできました。

今後の展望 **Prospects for the future**

今回の様々な議論を経て、自身のテーマにおける理解を得づらい点や特に興味を惹くことができる点が、明確になりました。これを論文執筆に活かすことにより、質の高い論文を発表できると考えています。

また、今後の研究に関する適切な相談相手や共同研究の可能性も分かりましたので、全てを活かしながら次のキャリアを重ねていきたいと思っています。

末筆ながら、このような渡航の機会を実現してくださった本助成制度に深謝申し上げます。